

【科目名】言語聴覚学演習 I (基礎)		【担当教員】大平、山村、入山、伊林、倉智 宮岡、若松、佐藤、藤間、阿志賀、高橋圭 (窓口：大平) 研究室 E 棟 2 階 メールアドレス ohdaira@nur.ac.jp (オフィスアワー) 火曜以外							
【授業区分】専門分野 (特論)	【授業コード】 5-33-1255-0-2								
【開講時期】4 年次 通年	【選択必修】選択								
【単位数】2	【コマ数】15								
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 言語聴覚士国家試験に出題される専門基礎科目の講義を行います。コマは順不動です。受け身ではなく、積極的に指導教員に関わり、自己学習を充実させてください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 設定コマ数が少ないですが、足りない分は補講をいたします。補講もすべて受講し、役立てること。									
【講義概要】 (目的) これまで学んできた基礎及び専門科目の内容を、国試の出題範囲に合わせて総合的に復習すること。 (方法) 国家試験の過去出題傾向から要点を知り、既に学んできた各科目の内容を整理・統合していく。予習・復習を充分にしておいてください。質問はいつでも受けつけますので、早めに連絡を入れて下さい。国家試験過去問題は答えを暗記するのではなく、最低でも 80%以上の理解ができるようになります。									
【一般教育目標(GIO)】 言語聴覚士国家試験に出題される専門基礎科目の復習を行う。 【行動目標(SBO)】 基礎科目、専門基礎科目について知識を深める。国家試験過去問題の 80%以上の理解(解説)ができる。そのため、過去問題は 90%以上正答、オリジナル問題は 60%以上正答できる。自ら学習する能力を身に着ける。									
【教科書・リザーブドブック】 ・ 廣瀬肇監修, 岩田誠ら編集『言語聴覚士テキスト第 2 版』医歯薬出版株式会社, 2012 年.¥4,000+税 ・ 科目ごとの教科書 ・ 医学辞書 (種類は問わない)									
【参考書】 医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成 25 年 4 月版』医歯薬出版株式会社, 2013 年. ¥2,200+税									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の G P A 制度に従う。模試の結果、受講態度 (補講含) を参考にする。オリジナル問題の定期試験と合わせて 60 点以上を合格とする。なお、再試験はなく、その代わり 2 回の試験を実施し、そのうち 1 回合格を必須とする。									
【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成果発 表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		95	2				3		100 点
評 価	取り込む力・知識	95	2						97
	思考・推論・創造の力								

平成 26～28 年度入学者用

指 標	コラボレーションとリーダーシップ							
	発表力							
	学修に取り組む姿勢					3		3
【授業日程と内容】								
回数	講義内容 順不同	授業の運営 方法	学修課題(予習・復習)	時 間 (分)				
1	解剖・生理学 山村千絵	講義など						
2	病理・内科・形成	講義など						
3	小児科学 和田有子	講義など						
4	精神医学・臨床心理 若松直樹	講義など						
5	リハ医学・概論 藤間紀明	講義など						
6	聴覚系 高橋圭三	講義など						
7	神経系 伊林克彦	講義など						
8	歯科系 山村千絵	講義など						
9	呼吸発声発語系の構造・機能・病態 阿志賀大和	講義など						
10	認知・学習心理学 宮岡里美	講義など						
11	心測・生涯発達心理 宮岡里美	講義など						
12	音声・言語学 大平芳則	講義など						
13	音響・聴覚心理 高橋圭三	講義など						
14	言語発達学 入山満美子、阿志賀大和	講義など						
15	法関係 大平芳則	講義など						

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。